

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	11	大学等名	北九州市立大学
テーマ	テーマⅡ 学修成果の可視化		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、「基本的事項の整理」「学修成果の可視化による PDCA」「実践型教育における成長の可視化」という 3 層構造の学修成果の可視化の観点を設定し、それらに関する取組を全学的に進めている。特に、学修成果の可視化とそれに基づく学生の省察を可能にする「北九大教育ポートフォリオシステム」を開発して、地域創生学群における試行を経て、全学に拡大することができたことから、大学全体の改革が加速していると言える。また、3つのポリシーの整合性を検討しつつ、学修成果の可視化を進め、PDCA サイクルを回すことで事業を進展させていることから、入口（入学）から出口（卒業）まで質保証の伴った大学教育を実現するための総合的な取組が実施されていると評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況について、テーマ別評価の観点である、成績評価の平準化と厳格化、学修成果の把握、成果を踏まえた取組の改善、教育課程の体系化について、いずれも着実に取組が進行していると評価できる。一方で、必須指標である「学生の授業外学修時間」に関しては、目標値を達成していないだけでなく、補助期間を通じて十分な伸びが見られない。更なる原因の究明や対応策の考慮が必要である。また、中間評価及びフォローアップで指摘された課題に対しては、それぞれ対応策が講じられているものの、その原因の究明が十分になされた上での対応策であるのか明確ではなく、適切な原因究明に基づいた対応策の実行が期待される。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長の下に設置された「大学教育再生加速プログラム推進室（AP 推進室）」において事業が推進され、また、補助期間終了後の学内の実施体制として新たに設置された「教育改革推進室」において事業継続を企図しているとともに、学修成果の可視化や内部質保証、FD 活動全学実施等を当該大学の第 3 期中期計画に記載していることから、継続的かつ発展的な事業実施のための全学的な取組体制を構築していると評価できる。

事業成果の普及については、学外はもとより学内の教員や学生に対しても積極的な情報発信に努め、平成 28 年度からはテーマⅡの幹事校として、シンポジウムの開催、事業の進捗状況の報告書作成等を実施し、成果の発信・普及に努めたことは評価できる。